

# SFRR Japan NEWSLETTER

June, 2021



## TOP NEWS



次期（任期：2022年総会～2024年総会まで）  
代議員選挙の公示が間もなく行われます。  
(7月のご案内予定)



現代議員は第3回代議員総会（2022年5月：第75回年次学術集会の予定）終了後、全員、任期満了となりますので、引き続き代議員を希望される先生方、また新たに立候補をご予定の先生方におかれましては、HP上で公示内容をご確認のうえ、立候補くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。立候補条件を必ず確認の上、必要書類を揃えて、期日までにお願いします。詳細については、別途メールでご案内予定です。なお、代議員選挙終了後、引き続き役員（理事・監事）の公示を11月頃に予定しております。立候補予定者はご予定お願ひいたします。

**(注意)立候補は新規・更新とともに会費完納者が対象となります。**  
会費納入忘れにご注意ください！



## 文月 のご挨拶



理事長 内藤 裕二  
(京都府立医科大学生体免疫栄養学講座 教授)

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況で、会員の皆様も教育、研究ともに大きな影響を受けていると存じます。また、医療関係の皆様は日々の診療に加えて、COVID-19の診療、ワクチン接種などにご尽力頂いていることに対し、厚く御礼申し上げます。最近のNature、ScienceなどのトップジャーナルはCOVID-19関連論文が多数掲載され、無料公開されています。しかしながら、よく見るとCOVID-19以外の論文も順調に、以前よりも増えている傾向もあります。緊急事態宣言下においてもサイエンスが継続されていることに対し感激を覚えざるを得ません。

さて、日本酸化ストレス学会の学術集会は昨年、今年と引き続き完全WEBの開催となりました。日本NO学会との合同開催を実施してきました。現地参加が困難な状況においても、会員の皆様のWEB上での熱い議論が行われたことを、頼もしく思っています。3月にはSFRR InternationalがWEBで開催され、久しぶりに国際学会に触れることもできました。SFRR AsiaならびにSFRR AustralasiaとのJoint MeetingもWEB開催を企画しています。こういった状況だからこそできることもあると思い、新たな企画に挑戦していきたいと考えています。

本学会の学会誌でありますJCBNも2020年IF 3.114と発表されました。今年から若干計算式が変更になったため、少し高めになるとされていましたが、IF 3以上となり編集委員も喜んでいるところです。会員のためのJournalとして今後とも投稿をお願い申し上げます。

最近ではワクチン接種が進み、そのデータ分析もされています。一番驚いたことはmRNAワクチンの効果は強力であり、唾液中にもS蛋白特異的IgG、IgAが出現し、自然感染者よりワクチン接種の方が高い抗体価が得られていることであり、細胞障害性T細胞も誘導されています。その結果、mRNAワクチンは感染予防にも有効であることが証明されました。会員の皆様もワクチン接種を受けられ、2022年はつくばでの学術総会で皆さんにお会いできることを楽しみにしながら、準備を進めていきたいと考えています。



## ◇◇◇ 年次学術集会開催報告 ◇◇◇

### 第74回日本酸化ストレス学会学術集会



会期:令和3年5月19日(水)～20日(木)  
会場:Live Web開催  
会長:藤井 順逸



(山形大学大学院医学系研究科生化学分子生物学教授)

令和3年の第74回日本酸化ストレス学会学術集会は、第21回日本NO学会学術集会との合同で、仙台国際会議場を予定会場として準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束が見通せないため、やむなくLive Web開催とさせていただきました。甚大な被害を被った東日本大震災から10年を経た節目の年でもあるため、仙台にご参集いただいてこれまでの復興を体感いただき、ご研究の成果を世界に向けて発信していただきたいと願っていたのですが、参加者の皆様の健康を護る観点から現地開催を断念致しました。仙台訪問を楽しみにしてご準備いただいた会員の皆様には、心よりお詫び申し上げます。本学術集会を終えて、実施内容について簡単にご報告させていただきます。両学会員と非会員を併せて272名に参加登録(有料)をいただき、招待者を含めて340名以上の方のご参加を得ることができました。今回は、酸化ストレス応答の中心を担う転写調節因子であるNr2fの研究で世界を牽引されている山本雅之教授(東北大)に特別講演を賜りました。同じく酸化ストレス制御で重要な役割を果たすBACH1の発見者である五十嵐和彦教授(東北大)には、日本NO学会の特別講演を賜り、両氏の講演を同時に拝聴できる機会に恵まれたことを大変喜ばしく思います。一般口演(酸化ストレス学会27題)とポスター演題(日本NO学会と併せて74題)のほかに、特別企画として合同シンポジウム・日本酸化ストレス学会シンポジウム(若手シンポジウムを加えた3テーマ)・日本NO学会シンポジウム(若手シンポジウムを加えた3テーマ)・日本微量元素学会共催シンポジウム・第3回国際活性イオウ研究会、を設け、レドックスバイオロジーが生命科学の重要な領域となっていることを発信いただきました。企画関係者ならびにご講演いただきました皆様には心より感謝申し上げます。Web開催には、ご多忙な方々にも遠隔地からご参加いただける利点はありますが、対面での意見交換や交流に勝るものはないと考えます。学術集会が通常開催できる日が一刻も早く訪れる事を願って、私からのご報告とさせていただきます。

### 第74回学術集会において 学会賞受賞記念講演並びに学術賞受賞記念講演 もWEBで行われました。



#### 2020年度受賞者

**学会賞** 藤井 順逸(山形大学大学院医学系研究科 生化学分子生物学 教授)  
演題名 「遺伝子改変によって明らかになる抗酸化遺伝子の生体内機能」

**学術賞** 福井 浩二(芝浦工業大学システム理工学部生命科学科 教授)  
演題名 「酸化ストレスによる神経突起変性のメカニズムの解明」



\*記念講演の際に授与予定であった授賞記念楯は略儀ながら郵送にて授与されました。



益々のご活躍を  
祈念いたしております。

## ◇◇◇ 次期年次学術集会案内 ◇◇◇

### 第75回日本酸化ストレス学会学術集会



会期:2022(令和4)年5月25日(水)～26日(木)  
会場:つくば国際会議場  
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3  
<https://www.epochal.or.jp/ja/>  
会長:松井裕史  
(筑波大学医学医療消化器内科)



第75回日本酸化ストレス学会の会長を拝命いたしました筑波大学医学医療系消化器内科の松井裕史です。会場は記載通りつくばで行いたいと思います。早いもので小職が筑波に来てから40年以上たちました。来たばかりの時は道路も舗装されていないような田舎町でしたが、高速道路ができ、東京と電車が直結し、どんどん人口が増えて大きな町になりました。そんなつくばの成長を見守りながら小職も大きく落ち着いた大人になればいいのでしょうか、いつまでたっても落ち着きがなくいろんなことに首を突っ込み、今は藻類から機能性物質を取る研究と新しい放射線療法の開発を行っています。粗ぶ類研究の延長線上として、第75回はSDGsの達成をテーマに掲げるつもりです。小職の藻類学の師匠、渡邊信先生に特別講演をお願いしました。また、日本一の金メダリスト筑波大学加藤澤男先生にもどうやって金メダルを8個も取ったのかというお話を伺いたいと思い、ご講演いただく予定です。さらに



末松先生と二人の物理学者、筑波大学重川先生と産総研の岩田先生の鼎談を企画しております。酸化ストレス学会には物理学の先生も多いです。3人の先達の話をじっくり伺いたいと思います。

どうか皆様つくばの地で久しぶりの対面学会をお楽しみください。



## ◇◇◇ 次々期年次学術集会案内 ◇◇◇

### 第76回日本酸化ストレス学会学術集会



会期:2023年5月24日(水)～25日(木)  
会場:神戸国際会議場(神戸市中央区)  
会長:芦田 均  
(神戸大学農学研究科生命機能科学専攻応用生命化学講座生物機能開発化学教育研究分野・教授)

このたび、神戸国際会議場において2023年5月24日(水)～25日(木)に第76回日本酸化ストレス学会学術集会を開催させて頂くことになりました。学生時代の1989年に、日本過酸化脂質・フリーラジカル学会に入会させて頂き、今まで会員を継続させて頂いておりますが、あまり学会に貢献していないにも関わらず、伝統ある学会の会長の任を執らせて頂くことになりましたこと、大変光栄に思っております。

神戸は平清盛が拓いた大輪田の泊に端を発する港湾都市として栄えてきましたことから、国内外の先端の文化をいち早く取り入れてきた土地柄があります。会場は、先端医療技術の国際的な研究開発拠点である神戸医療産業都市の中心地である神戸市のポートアイランドにあります。本学会におきましても皆様方の最先端のご研究成果をご発表頂き、議論できること期待しております。まだ、会期と会場を決めたところであり、具体的な開催準備はこれから鋭意進めていきたいと考えております。是非、諸先輩の先生方からご意見を賜り実りある学会にしたいと思っております。特に、医学・薬学系の先生方からのシンポジウムのご提案をお待ちしております。会員の皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。詳細が決まりましたら、改めて皆様にお知らせする所存です。何分至りませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ～ 2021年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

各選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



### 「2021年度 学会賞 を受賞して」

#### 豊國 伸哉

(名古屋大学大学院医学系研究科 教授)

このたびは、名古屋大学医学部(故)八木国夫名誉教授(生化学)が創設者のおひとりである日本過酸化脂質・フリーラジカル学会の流れを汲む本学会の学会賞をいたただくことができ、たいへん光栄に存じます。内藤裕二理事長、選考委員の先生方、ご推薦いただいた赤池孝章副理事長に心より御礼申し上げます。また、長年私と一緒に研究を遂行してくれた大勢の教室メンバーに感謝いたします。

私が研究を始めましたのは、京都大学医学部在学中の4年生のときであり、恩師となる岡田茂先生(当時、京都大学医学部講師)には大変お世話になりました。このときに教わった動物実験や生化学実験あるいは顕微鏡による病理診断を40年が経過した今も継続していることになります。当時は、鉄ニトリロ三酢酸を反復してラットの腹腔内に注射すると、思いがけず腎臓癌が発生するというモデルができたばかりであります。このモデルがここまで意義を有するようになるとは、想像だにしていませんでした。病理学の教えとして「見たものを信じる Seeing is believing」という言葉があります。これは見えないものは信じないということと相反するものではありませんが、このモデルをその後の研究生活のバックボーンとすることができたのは大きかったと振り返っています。また、アメリカ留学では偶然に内田浩二先生(当時、名古屋大学助手)と出会ったり、初めて行った鉄代謝の国際会議(ブリスベン)でDes Richardsonと出会ったりという幸運もあったかと思います。この2人とは今でも親交があります。90年代には酸化ストレスのFFPE標本での可視化、酸化ストレス発がんの解析、2005年からアスベスト発がんの病態解明、名古屋に行った2008年からナノマテリアルのリスク評価、2012年から低温プラズマの生物学的意義の追究、2014年くらいからフェロトーシスをやってきたと、自分の中では認識しています。

若手の研究者に伝えたいのは、英語を含む言語能力は思っている以上に重要であり、いつも磨く必要があること、定期的に新しい技術やテーマに取り組むこと、学会も含めて外国人研究者と広くつきあうように努力すること、という3点を実行してほしいと思います。今後も、理事として特に若手の育成に尽力したいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

### 「2021年 学術賞 を受賞して」

#### 石原 康宏

(広島大学大学院統合生命科学研究科 准教授)

この度は栄誉ある酸化ストレス学会学術賞を頂き、たいへん光栄に存じます。内藤裕二理事長をはじめ、選考委員の先生方、また、今までお世話になってきた先生方に厚く御礼申し上げます。



私は大学院博士前期課程の頃から酸化ストレス研究に取り組み、当初は肝臓で薬物が代謝される際に生じる酸化ストレスを研究対象としておりました。学位を取得後、所属が変わると共に研究対象とする組織は肝臓から心臓、そして脳へと変わっていきましたが、酸化ストレスに焦点を当てる点は変わらず、気が付くと20年ほど酸化ストレス研究に従事しています。現在は脳内の免疫担当細胞であるミクログリアを研究対象とし、ミクログリアの機能が酸化ストレスにより制御される仕組み、さらには、ミクログリア発の酸化ストレスがどのように神経疾患に関わるかを明らかにするべく研究を遂行しています。ミクログリアという細胞は、発生から成長するまでその活性が刻々と変化し、脳内でも部位によって性質が異なり、活性化すると脳を守ったり傷つけたりして、と「変幻自在」な奴で、研究対象としては難しい反面、好奇心がくすぐられます。

2010年に幸運にも学術奨励賞を頂戴した際、懇親会の場で多くの先生方に話しかけて頂き、刺激を受けたことを今でも覚えています。酸化ストレス学会に限らず、学術集会がオンライン化される中で、以前までは当たり前だった対面参加での学会の重要性、すなわち、研究に係る情報交換だけでなく、様々な先生方の研究や議論に触れてやる気をもらうことの大切さが身に染みて分かる今日この頃です。私もそぞこの歳になって参りましたので、自身の研究をさらに発展させることは勿論、他者に刺激を与えることができるような研究者になるべく日々精進して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 「2021年 学術賞 を受賞して」



### 七里 元督

(国立研究開発法人 産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 細胞・生体医工学研究グループ 研究グループ長)

この度は、栄誉ある日本酸化ストレス学会 2021年度 学術賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。内藤理事長をはじめ選考に携わって頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。私は大阪医科大学(現大阪医科大学)卒業後、小児科学教室にて臨床研修とともに同大学院に進学し、本学会功労会員の玉井浩前教授のご指導の下、痙攣性疾患に対する抗酸化剤の効果に関する研究を始めました。大学院在学中に東京大学大学院薬学系研究科衛生化学教室(新井洋由前教授)に学外研修させていただき、メチル水銀の神経毒性に対するビタミンEの効果に関する研究、肝臓からビタミンEを放出する機構に関する研究をさせていただきました。その後、現所属の産業技術総合研究所に異動し、二木鉄雄先生、吉田康一先生の御指導の下、ダウントン症モデルマウスに対する抗酸化剤の効果、精神的ストレスにおける脂質酸化物の関連に関する研究を進めました。大学院より一貫して「脂質酸化の制御による疾患治療法に関する研究」に携わって参りました。小児科学に関する臨床的知識と脂質酸化に関する基礎研究を自身の基盤とし、本受賞を励みに今後も研究に邁進してまいりたいと思います。また現在、本学会では代議員を務めさせていただいており、学会のさらなる発展のために貢献させていただく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

## 「2021年八木記念学術奨励賞 を受賞して」

佐藤 雨倉 咲希子 (東京工科大学)



この度は名譽ある八木記念学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長の内藤裕二先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、本研究の遂行においてご指導いただきまして先生方に深く感謝申し上げます。本論文では、エダラボンと次亜塩素酸の反応性を検討し、その反応生成物および反応メカニズムについて報告いたしました。これによりエダラボンのさらなる可能性を見出すことが出来たと感じております。本受賞を励みに今後も研究に邁進してまいりたいと考えております。

## JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報 (*Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*)



オンラインによる投稿随時受付中！  
Online SubmissionのURL  
<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

IF上昇中  
  
頁チャージは  
会員特別割引価格を  
設定しています。

\*特別審査・掲載なども受付ております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)  
Editorial Secretariat for JCBN <[jcbn@nacos.com](mailto:jcbn@nacos.com)>

## 「2021年 学術奨励賞 を受賞して」

本間拓二郎 (山形大学大学院医学研究科)



この度は日本酸化ストレス学会学術奨励賞をいただき大変光栄に存じます。理事長内藤裕二先生、長崎幸夫先生をはじめとする審査員の先生方、ご指導を賜りました藤井順逸先生、並びに豊國伸哉先生をはじめとする共同研究者の諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また今回の受賞の対象となりました二重欠損マウスに関する研究ですが、私が現在の講座に着任して酸化ストレス研究に参入した当時からビタミンCを与えないといふ間に死亡するものの、その原因が分からず不思議に思っていました。先端モデル動物支援プラットフォーム(AdAMS)の支援により豊國先生にその死因を特定して頂いたことで無事に論文を発表することができました。今後とも酸化ストレス研究に微力ながら貢献出来るよう努力していきたいと思いつつで、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。一日も早くコロナ禍が収束し、また学会会場で皆様にお会いできることを祈念しております。

安田 大輔 (慶應義塾大学薬学部)



この度は歴史ある日本酸化ストレス学会の学術奨励賞を賜り、理事長の内藤裕二先生、学会長の藤井順逸先生、並びに理事の皆様に謹んで御礼申し上げます。私は2009年より本学会に所属し、有機化学をベースにした酸化ストレス研究についての発表を重ねて参りました。そのような本学会での受賞は喜びもひとしおです。今後もさらに上を目指し、研究に励んでいきます。

最後になりましたが、長きにわたりご指導いただきました本学会理事の増野匡彦先生に深く感謝いたします。

### ◆◆◆ 学術奨励賞応募について ◆◆◆

一般演題公募と同時に公募致します。

1 酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する。ただし、研究業績はその主要な部分が日本国内で行なわれたものに限る。

2 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

応募に際しては、会員歴にご注意ください。(入会した年を1年目とする。)

◇◇◇ 学会報告 ◇◇◇

## 「第74回年次学術集会に参加して」

～若手の会活動報告～

若手の会 代表 安井 博宣 (北海道大学)

2021年5月19-20日に第74回日本酸化ストレス学会学術集会が開催されました。本集会は日本NO学会との合同学術集会であり、レドックスバイオロジーが切り開く生命科学の未来をテーマとし、2日間にわたりオンラインで開催されました。若手の会ではシンポジウム「医理工学協調の次の酸化ストレス研究へ」を主催し、診断技術、バイオマス利用、材料研究まで多岐にわたる酸化ストレス研究を紹介しました。また、学術集会前日の5月18日には、若手の会の決起集会を兼ねた懇親会をオンラインで開催し、今後の活動方針について意見交換を行いました。なお、例年恒例のフリーラジカルスクールについては、現在の新型コロナウイルス感染症の情勢を見極めながら、開催時期や実施方式について検討することとしています。本年冬から来年春の間の開催を検討中であり、オンライン開催もしくはハイブリッド開催を計画しています。

若手の会ホームページ (<https://yfrsince2020.wixsite.com/my-site>)では、活動状況などの広報活動と会員募集を行っています！現在の会員数は11名、まだまだ足りません。集え若手研究者！シニアな先生方にはどうか若い方へのお声掛けをよろしくお願いいたします。



## 新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第6回



佐藤 和恵  
(セリスタ株式会社管理部)



昨年末から、コロナ、コロナの世の中！！  
皆様はどの様にお過しなされておられますか？  
成るべく外に出ないようにするしかない毎日ですね。楽しみも特に  
はなし。精々、美味しいものをツマミにお酒を飲むことかな？  
随分前に、胃をかなり切除していますので、量が食べられない分、  
カロリー補給！に、毎日、お酒を飲む理由？ いつもは、ビール  
が多いのですが、刺身とかがあると、日本酒が飲みたくなります。  
大学で、分析関係(電子スピン共鳴)の仕事をしていたので、  
各ビールの抗酸化能を測定したりしました。ビールは、エビスの黒  
が一番。日本酒は色々！発泡酒、焼酎は、やはりお勧めできない  
値でした。ワインは、測定での比較は難しかったですが、  
ついついはまって、ワインセラーまで買う羽目に。友人が来訪された時は、一緒に飲む楽しみ！  
妹二人は、全く飲めないのですが、私一人が父と母の両家の酒  
飲みの遺伝子を引き継いだようです。  
学会にも、色々と参加させてもらっていますが、その土地のお酒  
を飲める楽しみもあります。私の酒飲みを知つておられる主催者の方  
が、気を使って下さったり、嬉しいこともあります。  
お酒を飲めない人に、勧めるのはいけないことかもしれません、  
後輩には、飲めなくても飲む振り位は出来ると思うので、強引な拒  
否は、しない方がいいよ！と。私にとっては、お酒が  
飲めたお蔭で、友達の輪が、広がったように思います。  
**感謝**  
酒に、感謝！ 感謝！

### ◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性も  
ありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、  
学会HPにても随時情報を掲載予定です。

**日本酸化ストレス学会 東海支部 第10回学術集会**  
日 時：2022(令和4)年2月19日(土)午後  
会 場：三重大学(三重県津市)(予定)  
実行委員長：及川伸二 (三重大学)



**日本酸化ストレス学会 関東支部 第34回学術集会**  
日 時：2021(令和3)年12月18日(土)(予定)  
会 場：オンライン開催(予定)  
会 長：李 昌一 (神奈川歯科大学 教授)



#### 関連国際学会

**28th Annual Meeting of the Society for Redox Biology & Medicine**

Date: November 17-20, 2021  
Venue: The Westin Savannah Harbor,  
Savannah, Georgia, USA  
Further information: sfrbm.org  
\*ハイブリッド開催(予定)



**10th SFRR Africa Meeting & 8th PAEMGS Meeting**

Date: September 15-17, 2021  
Venue: Stellenbosch, Cape Town, South Africa  
Further information: paemgs2021.co.za

#### SFRBM - SFRR 2023

**30th Annual Conference of the Society for Redox Biology & Medicine &  
SFRR 21st Biennial Meeting**

Date: November 15-18, 2023  
Venue: Punta del Este Convention & Exhibition Center  
Punta del Este, Uruguay



いずれもCOVID-19感染拡大状況を鑑みながら、  
WEB開催も含んで詳細を検討中。

## ◇ SFRR International & Asia News ◇

### 次回 SFRR Asia Biennial Meeting

The 10th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia  
(SFRR-Asia)

Date: 2022年11月末～12月初旬頃 (予定)

Venue: 韓国 大邱(予定)

会長: Prof. Young-Joon Surh (ソウル大学)

担当: SFRR Korea

\*2021年5月開催予定が延期されたもの。



10th Joint Meeting of Society for Free Radical Research  
Australasia and Japan (SFRR A+J 2021)

会期: 2021年11月(予定) LocalのFAOBMBとのJoint Meeting

会場: ニュージーランド(予定)

\*実際の開催については、COVID-19感染拡大の状況を踏まえて、WEB開催の可  
能性なども含めて、検討が進められている。



### Official Journal

**Free Radical Research** (Official Journal; SFRR Asia)

Editor-in-chief: Koji Uchida (Univ. of Tokyo)

Taylor & Francisより継続的にサポートを頂き、若手の奨励賞を  
授与しています。

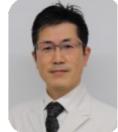
Travel Award, Young Investigator Award, Prestigious Poster Award等  
(過去実績 副賞: 800€, 500\$, 1年間の無料購読など)

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR  
Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国  
際組織のメンバーとなっております。



### ◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

2021年も7月を迎え、折り返しとなりました。6月号の発刊が  
7月にずれ込みましたことをお詫び申し上げます。賛否両論  
あるものの東京オリンピックの開催が世の中を賑わせていま  
すが、withコロナの時代と言われる中、上手く折り合いをつ  
けて、安心安全な開催を祈るばかりです。



さて、ニュースレター編集を担当しております私共総務委員会は2021年  
理事会において改編がなされ、半田が委員長を務めることとなり、また、頼  
もしいメンバー2名が追加されました。会員の皆さんに楽しんでいただける  
よう、より内容の充実に努めたいと思っておりますので、これからも宜しくお  
願いいたします。新メンバーより一言ずつ。 総務委員会委員長 半田 修

#### 犬童寛子委員

この度、総務委員を拝命しました鹿児島大学の犬童でござ  
います。感染を予防しながら生活するwithコロナの時代、学  
会活動もこれまでとは形式が大きく異なり、オンラインやハイ  
ブリッド形式による開催が主流になっています。半田総務委員  
長のご指導のもと“顔の見える”ニュースレターを目指し、微力ではござ  
いますが、総務委員として学会の運営に精一杯力を尽くして参りたいと考え  
ておりますので、今後ともなにぞよろしくお願い申し上げます。

#### 中西郁夫委員

総務委員を仰せつかりました中西郁夫です。  
この4月に放射線医学総合研究所から同じ敷地内の量子生  
命科学研究所に移りました。本学会には、日本フリーラジカル  
学会時代から20年近くにわたり大変お世話になっており、2  
年前の学術賞をはじめ、数々の賞をいただきました。現在のポジションを得  
て、家族とともにご飯を食べていけるのは、本学会でご指導ご鞭撻を賜  
りました先生方や本学会が縁でともに研究を進めてきた仲間たちのおか  
げであると心より感謝しております。総務委員として微力ながら学会の運  
営に貢献することで恩返しができれば幸甚です。よろしくお願ひいたします。

リニューアル



#### SFRR Newsletter 2021年6月号

発行: 2020年7月20日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局

(総務委員会:半田 修・犬童寛子・中西郁夫)

法人事務局: 〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel:075-415-3661 Fax:075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail:sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

HP: <http://sfrj.umin.jp/>